

オリーブ山での終末預言①

ニサンの月の12日、十字架にかかるて死ぬ三日前

イエスが宮から出て行かれるとき、弟子の一人がイエスに言った。「先生、ご覧ください。なんとすばらしい石、なんとすばらしい建物でしょう。」（マルコ13：1）

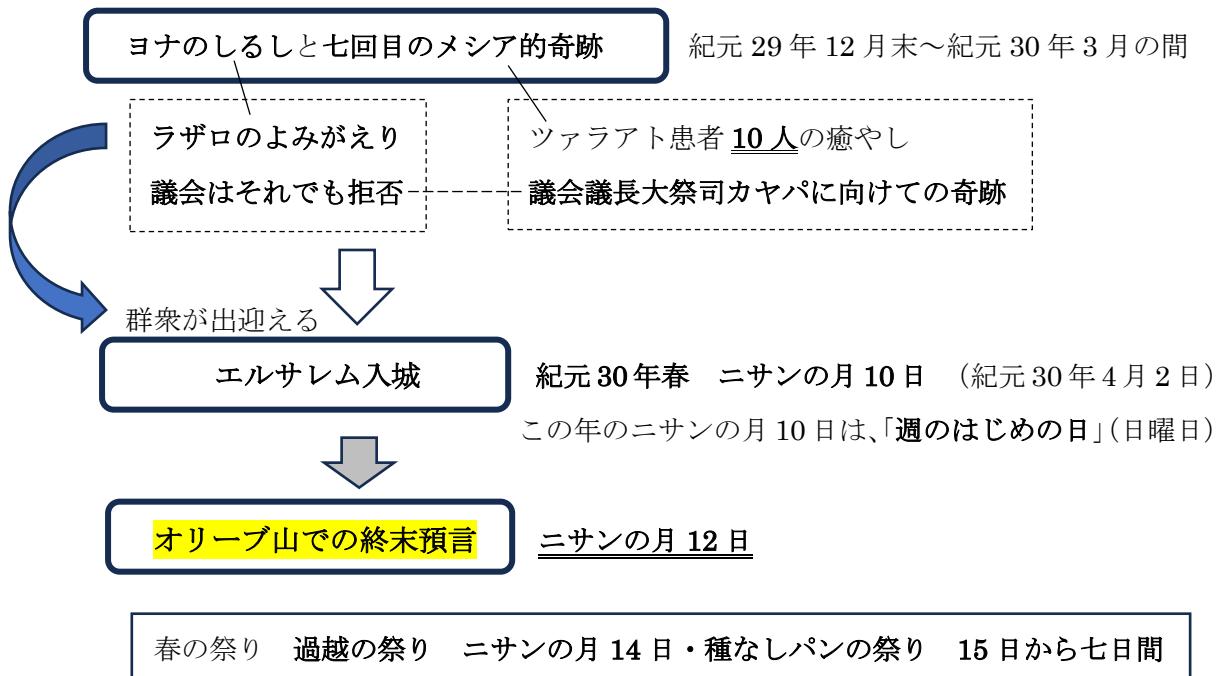
イエスが宮を出て行かれると、弟子たちが近寄って来て、イエスに向かって宮の建物を指し示した。（マタイ24：1）

さて、宮が美しい石や奉納物で飾られている、と何人かが話していたので、イエスは言われた。「あなたがたが見ているこれらの物ですが、どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることのない日が、やって来ます。」（ルカ21：5～6）

イエスがオリーブ山で宮に向かって座っておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにイエスに尋ねた。（マルコ13：3）

「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのですか。あなたが来られ、世が終わる時のしるしは、どのようなものですか。」（マタイ24：3b）

□前回までのハイライトからのつながり



□アウトライン

- A) 三つの質問
 - B) 再臨までの時代の特徴
 - C) 世の終わりのしるし
 - D) エルサレム陥落のしるし
 - E) 大患難期 前半
 - F) 大患難期 後半
 - G) 再臨
 - H) イスラエル民族が約束の地に集められる
 - I) いちじくの木のたとえ話（大患難期後半に入るときのイスラエルに向けた励まし）
 - J) 携挙
 - K) 大患難期の諸国民に向けた5つのたとえ話
 - L) 諸国民のさばき
-
- ①
- ②

A) 三つの質問

マタイ 24:3b 「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのですか。あなたが来られ、世が終わる時のしるしは、どのようなものですか。」

質問① いつ、エルサレム陥落・神殿崩壊が起こるのですか? → D)

質問② イエスが再び来られるときのしるしは、どのようなものですか? → B)

質問③ 世が終わるときのしるしは、どのようなものですか? → C)

B) 再臨までの時代の特徴

マタイ 24:4~6 そこでイエスは彼らに答えられた。「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わします。また、戦争や戦争のうわさを聞くことになりますが、気をつけて、うろたえないようにしなさい。そういうことは必ず起りますが、まだ終わりではありません。

並行箇所 マルコ 13:5~7、ルカ 21:8~9

C) 世の終わりのしるし

マタイ 24:7~8 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起ります。しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりなのです。

- 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり・・・世界大戦。第一次世界大戦から始まり、第二次世界大戦、そして現在まで続いている。

並行箇所 マルコ 13:8、ルカ 21:10~11 「方々に飢饉や疫病が起ります」

D) エルサレム陥落のしるし

エルサレム陥落の前に、使徒たちが個人的に経験することの預言

ルカ 21:12~19 しかし、これらのことすべてが起こる前に、人々はあなたがたに手をかけて迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために、あなたがたを王たちや総督たちの前に引き出します。それは、あなたがたにとって証しをする機会となります。

ですから、どう弁明するかは、あらかじめ考えない、と心に決めておきなさい。あなたがたに反対するどんな人も、対抗したり反論したりできることばと知恵を、わたしが与えるからです。あなたがたは、両親、兄弟、親族、友人たちにも裏切られます。中には殺される人もいます。また、わたしの名のために、すべての人に憎まれます。しかし、あなたがたの髪の毛一本も失われることはありません。あなたがたは、忍耐することによって自分のいのちを勝ち取りなさい。

エルサレム陥落の前兆は、エルサレムが軍隊に囲まれること

ルカ 21:20~24 しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。 そのとき、ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。 都の中にいる人たちはそこから出て行きなさい。田舎にいる人たちは都に入ってはいけません。書かれていることがすべて成就する、報復の日々だからです。それらの日、身重の女たちと乳飲み子を持つ女たちは哀れです。この地に大きな苦難があり、この民に御怒りが臨むからです。人々は剣の刃に倒れ、捕虜となって、あらゆる国の人々のところに連れていかれ、異邦人の時が満ちるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。

- エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら・・・第一次ユダヤ・ローマ戦役（紀元67~74年、エルサレム陥落は70年）の前に、ユダヤの反乱蜂起が紀元64~66

年に起きた。このときシリア総督指揮下のローマ軍はいったんエルサレムを包囲したが戦力不十分と判断して退却した。

- **山へ逃げなさい**・・・エルサレムがいったんローマ軍に囲まれたのを見て、エルサレム教会はイエスの預言に従い、信者全員がヨルダン川東側の山地の町、ペラ（現代のタバカト・ファール近郊）に避難した。そして、ガリラヤやゴラン高原にいた信者たちもここに避難してきた。
- **異邦人の時**・・・エルサレムが異邦人の支配下にある時代。紀元前605年の第一次バビロン捕囚から始まり、現代まで続いている。

E) 大患難期 前半

マタイ 24:9～14 そのとき、人々はあなたがたを苦しみにあわせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。そのとき多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合います。また、偽預言者が大勢現れて、多くの人を惑わします。不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。

- 御国この福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ・・・大患難期7年は神の怒りが地上にくだる時期であるが、大患難期の前半はユダヤ人による世界宣教の時期でもある。大患難期に入る前に教会が携挙されて、地上には真の信者がいったんいなくなる。しかし、大患難期が始まる時点では、神は世界各地に合わせて14万4千人のユダヤ人信者を起こし、彼らをそれぞれの国でイエスをメシアとして証しする証人、神のしもべとする。
 - 使徒1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。
 - 黙7:2～4 また私（使徒ヨハネ）は、もうひとりの御使いが、日の昇る方から、生ける神の印を持って上って来るのを見た。彼は、地にも海にも害を加えることを許された四人の御使いたちに、大声で叫んだ。「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を加えてはいけない。」私は、印を押された者たちの数を耳にした。それは十四万四千人で、イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。

F) 大患難期 後半

大患難期後半の始まり

マタイ 24：15～22 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす忌まわしいもの』が聖なる所に立っているのを見たら——読者はよく理解せよ——ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。屋上にいる人は、家にある物を取り出そうとして下に降りてはいけません。畑にいる人は上着を取り戻ってはいけません。それ日の日、身重の女たちと乳飲み子を持つ女たちは哀れです。あなたがたが逃げるのが冬や安息日にならないように祈りなさい。そのときには、世の始まりから今に至るまでなかつたような、また今後も決してないような、大きな苦難があるからです。もしその日数が少なくされないなら、一人も救われないでしょう。しかし、選ばれた者たちのために、その日数は少なくされます。

- 預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす忌まわしいもの』が聖なる所に立っている・・・「荒らす忌まわしいもの」とは一般的には偶像を指す。「預言者ダニエルによって語られたあの」とは、大患難期7年のうち、後半の3年半においてエルサレムの神殿に設置される偶像を指す（ダニ 9：27）。その偶像は、大患難期後半における全世界の支配者「反キリスト」の像である（黙 13：14～15）。
- 山へ逃げなさい・・・その場所は、ボツラ（現代の地名は、南ヨルダンのペトラ）である。旧約聖書で次のように預言されている。
 - ミカ 2：12 ヤコブよ。わたしは、あなたを必ずみな集め、イスラエルの残りの者を必ず呼び集める。わたしは彼らを、囲いの中の羊のように、牧場の中の群れのように、一つに集める。
 - ✧ 囲いの中・・・原語は「ボツラ」。羊の群れを囲いこむための柵を意味する。中に入ればかなりの広さがあつて多くの羊が入ることができるが、出入り口は狭くて1か所しかないような柵である。ただし、この預言に出てくるのは、地名としての「ボツラ」。そこの地形は、まさに羊を囲い込むような柵のようになっていて、まわりを高い岩山に囲まれており、出入口は両側を高い岩壁に挟まれた狭い通路だけである。ここに、大患難期の後半、イスラエルの人々が避難する。現代の地名は、南ヨルダンのペトラ。
- その日数は少なくされます・・・3年半と定められ、それより長くなることはない。聖書では1260日、42か月、一時と二時と半時といった表現が用いられる。

大患難期後半の終わり

マタイ 24:23~28 そのとき、だれかが『見よ、ここにキリストがいる』とか『そこにいる』とか言っても、信じてはいけません。偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、できれば選ばれた者たちをさえ惑わそうと、大きなしるしや不思議を行います。いいですか。わたしはあなたがたに前もって話しました。ですから、たとえだれかが『見よ、キリストは荒野にいる』と言っても、出て行ってはいけません。『見よ、奥の部屋にいる』と言っても、信じてはいけません。人の子の到来は、稻妻が東から出て西にひらめくのと同じようにして実現するのです。死体のあるところには、禿鷹が集まります。

- 人の子の到来は、稻妻が東から出て西にひらめくのと同じ・・・メシアは、荒野や奥の部屋など地上のどこかにひそかに出現するのではなく、稻妻が空にひらめくように、地上のだれの目にも見えるように現れる。
- 死体のあるところには、禿鷹が集まります・・・死体はボツラに避難しているイスラエル民族。反キリスト軍が迫って来て絶体絶命の状態にあるので「死体」という表現。禿鷹は反キリスト軍。
- メシアの再臨の場所はボツラ
 - ミカ 2:13 打ち破る者は 彼らの先頭に立って上って行く。彼らは門を打ち破って進み、そこを出て行く。彼らの王が彼らの前を、主が彼らの先頭を進む。
 - イザヤ 34:5~6 「まことに、天でわたしの剣は血に浸されている。見よ。これがエドムの上に、わたしが聖絶すると定めた民の上に下る。」主の剣は血で満ち、脂肪で肥えている。子羊とやぎの血、雄羊の腎臓の脂肪で。主がボツラでいけにえを屠り、エドムの地で大虐殺をされるからだ。

並行箇所 マルコ 13:14~23

G) 再臨

マタイ 24:29~30 そうした苦難の日々の後^{あと}、ただちに太陽は暗くなり、月は光を放たなくなり、星は天から落ち、天のもろもろの力は揺り動かされます。そのとき、人の子のしるしが天に現れます。そのとき、地のすべての部族は胸をたたいて悲しみ、人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見るのです。

ルカ 21：25～27 それから、太陽と月と星にしるしが現れ、地上では海と波が荒れどよめいて、諸国の民が不安に陥って苦悩します。人々は、この世界に起ころうとしていることを予測して、恐ろしさのあまり気を失います。天のもろもろの力が振り動かされるからです。そのとき人々は、人の子が雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見るのです。

並行箇所 マルコ 13：24～26

H) イスラエル民族が約束の地に集められる

マタイ 24：31 人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。

マルコ 13：27 そのとき、人の子は御使いたちを遣わし、地の果てから天の果てまで、選ばれた者たちを四方から集めます。

I) いちじくの木のたとえ話（大患難期後半に入るときのイスラエルに向けた励まし）

マタイ 24：32～35 いちじくの木から教訓を学びなさい。枝が柔らかになって葉が出来ると、夏が近いことが分かります。同じように、これらのことすべてを見たら、あなたがたは人の子が戸口まで近づいていることを知りなさい。まことに、あなたがたに言います。これらのことがすべて起こるまでは、この時代が過ぎ去ることは決してありません。天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることはありません。

並行箇所 マルコ 13：28～32、ルカ 21：29～33